

平成22年4月期 第3四半期決算短信

平成22年3月9日

上場会社名 株式会社 ロック・フィールド

上場取引所 東大

コード番号 2910 URL <http://www.rockfield.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩田 弘三

問合せ先責任者 (役職名) 経理グループマネージャー (氏名) 伊澤 修

TEL 078-435-2800

四半期報告書提出予定日 平成22年3月17日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年4月期第3四半期の連結業績(平成21年5月1日～平成22年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年4月期第3四半期	34,641	△4.1	1,613	8.1	1,634	8.3	743	△5.8
21年4月期第3四半期	36,124	—	1,493	—	1,509	—	789	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年4月期第3四半期	55.98	—
21年4月期第3四半期	59.42	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年4月期第3四半期	26,658	20,856	78.2	1,570.40
21年4月期	26,351	20,521	77.9	1,545.17

(参考) 自己資本 22年4月期第3四半期 20,856百万円 21年4月期 20,521百万円

2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年4月期	—	18.00	—	22.00	40.00
22年4月期	—	12.00	—		
22年4月期 (予想)				18.00	30.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成22年4月期の連結業績予想(平成21年5月1日～平成22年4月30日)

(％表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,810	△3.0	1,892	1.8	1,905	1.6	901	△15.2	67.90

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 無

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年4月期第3四半期	13,394,374株	21年4月期	13,394,374株
② 期末自己株式数	22年4月期第3四半期	113,159株	21年4月期	113,021株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	22年4月期第3四半期	13,281,277株	21年4月期第3四半期	13,281,477株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策などにより景況感回復の兆しは見え始めたものの、設備投資や個人消費の改善には至らず、企業収益や雇用環境は厳しい状況のまま推移いたしました。

食品業界においては、緩やかなデフレ状況下において業種を超えた激しい低価格競争が起こり、雇用や所得環境の悪化による生活防衛意識の高まりと相俟って経営環境はますます厳しさを増しました。

このような状況のもと、当社グループは価格競争より食の安心と安全を第一義と捉え、価値訴求をテーマとして高品質で付加価値の高い商品とサービスをお客様に提供することに取り組んでまいりました。既存店売上が伸びない中、計画的購買による原材料の安定的な確保や生産性の向上・業務の効率化を継続的に行い、全社上げての改善活動に取り組むとともに経費の効率的な使用などにより利益の確保に努めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は34,641百万円（前年同期比4.1%減）、営業利益1,613百万円（前年同期比8.1%増）、経常利益1,634百万円（前年同期比8.3%増）、四半期純利益は743百万円（前年同期比5.8%減）となりました。

主なブランド別の概況は次のとおりであります。

「RF1」ブランドにおきましては、定番商品の品質向上に継続して取り組み、安心・安全を求めるお客様の信頼に応えるような新商品の開発、こだわり素材を使った商品の展開を行うなど、付加価値の高い商品の提供を行ってまいりました。また、お客様の多様なニーズに対応するため、商品ミックスなどを行ってまいりました。その結果、売上高は26,546百万円（前年同期比1.4%減）となりました。

「神戸コロッケ」ブランドにおきましては、平成元年の第1号店のオープンから20周年となる感謝の気持ちを込めた「20周年アニバーサリーコロッケ」やおつまみとして利用いただける「ミニコロッケ」を展開するなど、お客様に継続したご愛顧をいただけるような品揃えを行ってまいりました。その結果、売上高は3,013百万円（前年同期比4.6%減）となりました。

「ベジテリア」ブランドにおきましては、「緑の健康バランス30品目」、「雪りんご&にんじん」など野菜の素材とフルーツを組み合わせて飲みやすくしたジュースやスープを継続して提案した結果、売上高は、1,414百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

ブランド別の売上は以下のとおりであります。

業態		平成22年4月期 第3四半期連結累計期間		平成21年4月期 第3四半期連結累計期間		対前期比
		売上	構成比	売上	構成比	
		百万円	%	百万円	%	%
RF1	サラダ	14,748	42.6	14,559	40.3	101.3
	フライ	5,053	14.6	6,112	16.9	82.7
	その他そうざい	6,743	19.5	6,245	17.3	108.0
	小計	26,546	76.7	26,917	74.5	98.6
神戸コロッケ		3,013	8.7	3,157	8.7	95.4
いとはん・三日坊主		1,502	4.3	1,343	3.7	111.9
RF1 Asia・融合		802	2.3	838	2.3	95.7
そうざいや 地球健康家族	そうざい	802	2.3	1,363	3.8	58.8
	弁当・米飯	412	1.2	601	1.7	68.5
	小計	1,214	3.5	1,965	5.5	61.8
ベジテリア		1,414	4.1	1,506	4.2	93.9
その他		148	0.4	396	1.1	37.4
合計		34,641	100.0	36,124	100.0	95.9

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産については、前連結会計年度末に比べて307百万円増加し26,658百万円となりました。これは、減価償却費等により有形固定資産が227百万円減少したものの、売掛金が651百万円増加したこと等によるものであります。

一方、負債においては、前連結会計年度末に比べて27百万円減少し、5,802百万円となりました。これは、主に長期借入金（1年内返済予定長期借入金を含む）の返済536百万円や、給与支給日変更に伴う未払給与の増加等によるものであります。

純資産においては、前連結会計年度末に比べて334百万円増加し、20,856百万円となりました。この結果、自己資本比率は78.2%、1株当たり純資産額は1,570円40銭となりました。

(2) 連結キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べて10百万円減少し、6,145百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1,728百万円（前年同期比583百万円の増加）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益が1,337百万円（前年同期比131百万円の減少）であったこと、減価償却費が1,062百万円（前年同期比16百万円の減少）であったこと、売上債権の増加額が651百万円（前年同期比279百万円の増加）であったこと、法人税等の支払額が724百万円（前年同期比187百万円の減少）であったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は694百万円（前年同期比1,033百万円の減少）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出が476百万円（前年同期比988百万円の減少）となったこと、差入保証金の差入が140百万円（前年同期比117百万円の増加）であったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,044百万円（前年同期比167百万円の増加）となりました。これは、主に長期借入金の約定弁済536百万円、配当金の支払額451百万円等によるものであります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年12月3日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年1月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年4月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,165	6,256
売掛金	3,876	3,225
製品	49	56
仕掛品	54	56
原材料及び貯蔵品	147	167
その他	547	550
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	10,839	10,310
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,664	8,987
機械装置及び運搬具（純額）	562	598
土地	3,003	3,003
建設仮勘定	3	2
その他（純額）	900	769
有形固定資産合計	13,134	13,361
無形固定資産		
	213	245
投資その他の資産		
投資有価証券	336	350
差入保証金	562	534
長期預金	1,000	900
繰延税金資産	162	108
その他	418	548
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	2,472	2,433
固定資産合計	15,819	16,040
資産合計	26,658	26,351

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年1月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年4月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,011	1,137
1年内返済予定の長期借入金	450	673
未払法人税等	249	392
賞与引当金	335	539
未払費用	1,348	836
その他	1,286	895
流動負債合計	4,683	4,474
固定負債		
長期借入金	887	1,201
その他	231	152
固定負債合計	1,119	1,354
負債合計	5,802	5,829
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,544	5,544
資本剰余金	5,861	5,861
利益剰余金	9,637	9,345
自己株式	△208	△208
株主資本合計	20,834	20,542
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	22	△20
評価・換算差額等合計	22	△20
純資産合計	20,856	20,521
負債純資産合計	26,658	26,351

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
売上高	36,124	34,641
売上原価	15,927	14,927
売上総利益	20,196	19,713
販売費及び一般管理費	18,703	18,099
営業利益	1,493	1,613
営業外収益		
受取利息	2	4
受取配当金	5	3
保険配当金	7	9
その他	15	19
営業外収益合計	30	37
営業外費用		
支払利息	11	15
その他	3	0
営業外費用合計	14	16
経常利益	1,509	1,634
特別利益		
過年度損益修正益	—	1
特別利益合計	—	1
特別損失		
固定資産除却損	28	82
減損損失	12	—
店舗閉鎖損失	—	32
投資有価証券評価損	—	90
出資金評価損	—	93
特別損失合計	40	298
税金等調整前四半期純利益	1,469	1,337
法人税等	679	593
四半期純利益	789	743

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年5月1日 至 平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年5月1日 至 平成22年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,469	1,337
減価償却費	1,078	1,062
減損損失	12	—
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△231	△203
受取利息及び受取配当金	△7	△8
支払利息	11	15
固定資産除却損	28	82
店舗閉鎖損失	—	32
投資有価証券評価損益 (△は益)	—	90
出資金評価損	—	93
売上債権の増減額 (△は増加)	△372	△651
たな卸資産の増減額 (△は増加)	10	29
仕入債務の増減額 (△は減少)	△194	△125
未払費用の増減額 (△は減少)	—	512
その他	256	191
小計	2,060	2,458
利息及び配当金の受取額	7	9
利息の支払額	△11	△15
法人税等の支払額	△911	△724
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,144	1,728
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△20	△120
定期預金の払戻による収入	—	100
有形固定資産の取得による支出	△1,465	△476
有形固定資産の売却による収入	20	1
無形固定資産の取得による支出	△55	△54
投資有価証券の取得による支出	△114	△6
長期前払費用の取得による支出	△100	△57
差入保証金の回収による収入	28	59
差入保証金の差入による支出	△22	△140
その他	1	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,727	△694

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年5月1日 至平成21年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年5月1日 至平成22年1月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	200	—
長期借入金の返済による支出	△525	△536
リース債務の返済による支出	△20	△56
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△531	△451
財務活動によるキャッシュ・フロー	△876	△1,044
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,467	△10
現金及び現金同等物の期首残高	6,058	6,156
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,591	6,145

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成21年1月31日）

当社グループは、同一セグメントに属する各種そうざいの製造・販売事業を行っており、当該セグメント以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成21年5月1日 至平成22年1月31日）

当社グループは、同一セグメントに属する各種そうざいの製造・販売事業を行っており、当該セグメント以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成21年1月31日）

全セグメントの売上高の合計額に占める「本邦」の割合がいずれも90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自平成21年5月1日 至平成22年1月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び重要な在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

前第3四半期連結累計期間（自平成20年5月1日 至平成21年1月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、海外売上高の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自平成21年5月1日 至平成22年1月31日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。